

6.3 学級目標をつくらう

1. 題材設定の理由

5年間の学級生活から、問題点や良さを振り返らせ、どんな学級にしたいか一人一人に考えさせたい。そして、一人一人の願いを出し合ったり、教師の願いを話したりすることで、それぞれが生き、成長できるためにはどのようなことが大切になってくるかを考えさせたい。

子どもたちは、小学校生活最後の学年を迎えるとともに、最高学年として学校をリードする責務も期待される。責任や期待を意識させるとともに、卒業に向けて仲間と共に高まりが期待できる目標をつくらせたい。

2. 指導のねらい

一人一人の学級への願いを出し合って学級目標をつくり、その実現に意欲をもつことができる。

3. 指導計画（全1時間）

本時	一人一人の願いを大切にしながら、学級目標をつくり、実現に向けて具体的な方法を考えることができる。
事後	学級目標の掲示物をつくり、掲示する。 朝の会や帰りの会、行事、取り組みを通して、学級のめあての見届け活動を行い、評価する。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・5年生のときの学級の様子を思い出し、6年生の学級に生かすことができる。	◎5年生のときの学級の様子を思い出し、良さや課題を話し合う。 ◎教師の願いや、6年生で大切にしたいことの話聞く。	・学級委員や班など、司会や記録、黒板書記などはあらかじめ指導しておく。 ・良いことだけでなく、課題も見つめさせる。	・司会者用マニュアル ・説話例
課題：みんなの願いを出し合って学級のめあてを決め、目標の実現に向けてどうするか考えよう。				
中心的活动	・仲間の意見を大切にしながら、学級のめあてを決めることができる。 ・学級のめあてをつくることができる。	◎どんな学級にしたいか、自分の願いを書く。 ◎一人一人の願いを発表し、交流する。 ・全校をリードする ・いじめや差別がない ・協力できる ・男女仲が良い ・活動をやりきる ◎仲間の意見を聞きながら、どんな学級にしたいか、まとめる。 ◎仲間の思いがこもった学級のめあてをつくる。	・できれば全員の思いを発表させるよう、司会者を指導しておく。 ・発言者の思いに「付け足し」「同じ」などのつぶやきや発言を引き出す。 ・象徴的な言葉、語呂合わせなど、イメージでき、覚えやすいものにする。	ノート① ノート②
まとめ	・目標実現に向けての方法を考える。	◎学級目標を実現するためにどのような方法があるか考える。	・見届けや意識できる場面を具体的に考えさせる。	ノート③
事後	◎学級のめあての掲示づくり ・一人一人の願いを掲示物に表し、仲間と協力してつくることできる。	－製作手順－ ◎めあての言葉をイメージしながら製作方法を出し合う。 ◎役割分担をして、グループごとに協力して製作する。	・事前にデザインを募集決定する。 ・製作に使う材料についてはあらかじめ用意しておく。 ・学級のめあての製作活動について評価する。	・色画用紙、掲示ボード、色紙
	◎見届け活動 ・あらゆる活動を通して学級のめあてを意識させる。	－見届け活動－ ◎日常活動で振り返りを行う。 ◎行事や取り組みのめあてづくりや振り返りを行う。	・毎日の見届け活動を通して目標を意識させるとともに、学級の高まりを明らかにした掲示を工夫する。	・見届けの掲示

《説話例》 「最高学年として」

いよいよ最高学年の6年生になりました。この学級で小学校生活を終えるのです。同窓会もこの学級で行うかもしれない、大事な学級です。この1年間、充実した学校生活を送りましょう。先生がそのために大切にしたいことは・・・です。もう1つ大事なことがあります。それは〇〇小学校のリー

ダーとしての自覚をもつことです。君たちは〇〇小学校の顔です。多くの方から多くのことが期待されています。具体的には・・・です。そのために君たちは・・・を大切にしないではいけません。具体的には・・・。